



迫川分校学区乗合タクシー「ブンタク」

インタビュー 代表者：近藤 嘉也

迫川地区情報	世帯数	779 世帯	人口	1,811 人	高齢化率	36.6%
--------	-----	--------	----	---------	------	-------

■活動のきっかけ

平成23年に岡山市が交通実態調査を行った際に、生活交通をやってみないかと話がありました。奥迫川は特に高齢化率が高く、あと何年かすると免許を返さないといけない方も増えてきます。しかし公共交通機関は乏しいことから、今真剣に生活交通について考え、誰かが行わなければならないと考えていました。

そのような中、奥迫川区自治会長から一緒にやってくれないかと声が掛かり、迫川学区内の3町内が集まり、活動を行うこととなりました。

■活動目的

地域住民の買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保することを目的として、「迫川地区生活交通を考える会」が運営主体となって運行する生活交通です。「迫川分校（ブン）学区のタクシー車両を使ったバス」なので、名前は「ブンタク」としました。

平成28年11月から平成30年3月までの間、試験的に運行し、平成30年4月より本格運行に移行しました。今後も様々な課題と向き合いながら、地域の皆様に愛着を持ってもらえるよう、利用促進や運行改善に取り組んでいきます。迫川で実績が上がれば、灘崎地域の他地区と一緒に進めていきたいと考えています。



運行事業者との協定書締結

■これまでの活動や取り組みについて

平成27年9月から迫川地区生活交通を考える会を立ち上げ、それから毎月会議をしました。

平成28年9月と11月に全世帯を対象に生活交通の利用ニーズ調査（アンケート）を実施し、運行計画を作成しました。生活支援の要望も多かったことから、現在は見守りを中心とした生活支援サービス「おせっかい」もおこなっています。

平成30年4月の生活交通を考える会において、試験運行期間中の変更策として、運行する曜日の変更や、便数の追加、停留所の増設、運行範囲の延長、複数乗車割引、区域運行の取入れを実施しました。

令和2年4月～令和3年2月までの利用実績は延べ522名、稼働便数は153便でした。



■工夫していること

多くの方に利用して頂くために、利用状況を見ながら、システムを変えています。令和元年8月からは、12枚つづり（1200円分を1000円）の回数券販売を始め、令和2年度は、他地区の方の利用も可能にしました。

■利用対象者

子どもから高齢者まで（対象を限定しない）

■利用の為の手続き等

指定の路線を運行し、停留所の時刻設定が定時である「路線不定期運行」を採用しました。

路線は、迫川地区と国道30号線沿いのスーパー・病院を結ぶエリアに加え、ウェルポートなださき、灘崎支所、サウスビレッジまで拡大しています。

- ①電話等で利用する便を事前に予約
- ②予約した停留所間で乗車、運賃支払い
- ③停留所での降車を含め、区域運行に変更して、自宅付近での下車も可能になりました。

■活動日・利用料金（令和3年4月現在）

運行頻度は、月・火・金の週3日、1日あたり12便（6往復）。1人1回500円。

- ・6歳未満は無料
- ・12歳以下は250円
- ・身体障害者手帳、療育手帳、愛カード提示者は450円

※複数乗車割引は下記のとおりとなります

人数	1人あたりの料金
2人	400円
3人	300円
4人	200円



■ひと

構成スタッフ：奥迫川・迫川・茂曾路町内会役員を中心とする20名で構成

■運行費

フンタクを運行するための経費は、利用者が負担する運賃と赤字補てん分は市補助金、生活交通を考える会が負担をしています。また、区域内の企業や病院から協力金を頂き、フンタクの運営費に充て、持続可能な運営の仕組みを作りました。

■ネットワーク

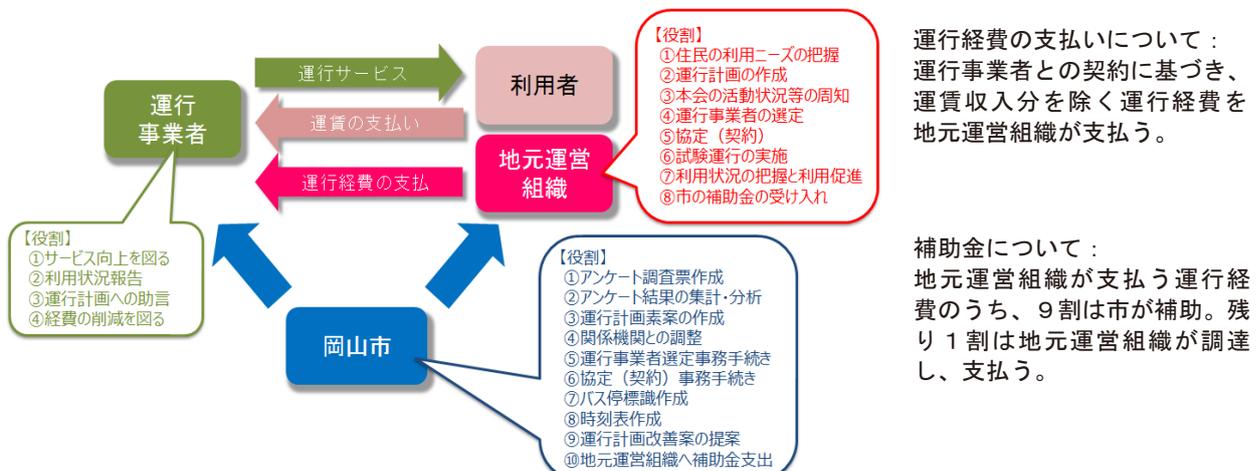
子どものネットワーク
ケア会議のネットワークなど

■今後取り組もうとする人に伝えたいこと

考えるだけでなく、何でも良いと思ったことを実際にやってみなければなりません。そのうえで良かったこと悪かったことを判断して、みんなで変えて行ければと思います。地域みんなが和気あいあいとして、住んでいて良かったと思える地域になればと思います。

※生活交通とは

鉄道や路線バスの利用が不便な地域で生活・活動する方々の移動を支えるため、地元が主体となって計画・運用する公共交通サービス



<生活交通についてのお問い合わせ>

岡山市 都市整備局 都市・交通部 交通政策課

岡山市北区大供一丁目1番1号 TEL: 086-803-1376 FAX: 086-234-0435